

ハイクオリティやまなし

農業

■問い合わせ先 農政総務課 TEL 055-223-1583

山梨県の農業は、変化に富んだ自然や大消費地の東京圏に近い有利な立地条件を生かしながら、農業者のたゆまぬ努力と高度な生産技術の確立などにより、果樹、畜産、野菜、水稲、花き、水産などの特色ある産地を形成しています。中でも果樹は農業生産額の約6割を占め、ブドウ、モモ、スモモは全国一の生産量を誇っています。

さらに、甲州牛や甲州富士桜ポークなどのブランド肉の認知度向上や、日本で初めてキングサーモンとニジマスを交配させて誕生した「富士の介」など農畜水産物のブランド化を推進し、本県農畜水産物の高付加価値化に取り組んでいます。

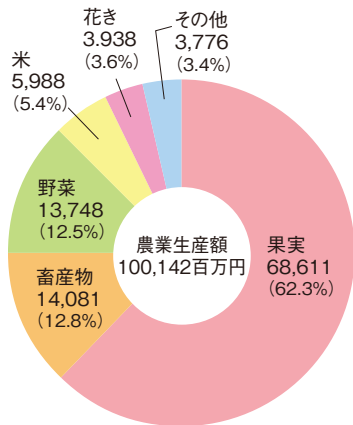


「星屑の夜」撮影場所：富士吉田市
(第16回やまなし農村風景写真コンクール 山梨県知事賞作品)



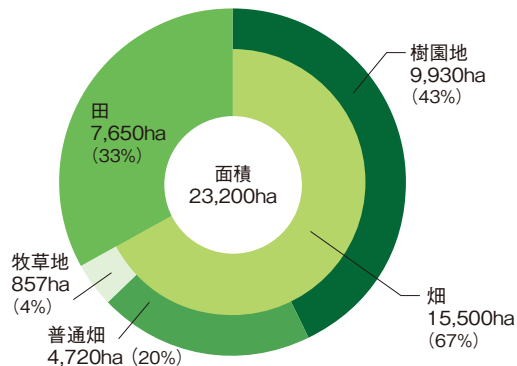
「実のりの大地」撮影場所：韮崎市
(第16回やまなし農村風景写真コンクール 入選作品)

■農業生産額(令和3年) (単位:百万円)



資料：令和3年農業及び水産業生産額実績（山梨県農政部）

■耕地面積(令和4年7月15日現在)



資料：耕地及び作付面積統計（農林水産省）
(統計表の基準により四捨五入したため、計と内訳は一致しない。)

おいしい未来へやまなし

本県は良質な水や長い日照時間、豊かな土壌に恵まれており、高品質な農畜水産物を多く生産しています。また、脱炭素化に貢献する4パーミル・イニシアチブや家畜の快適性に配慮するアニマルウェルフェアなど、農業分野から持続可能な開発目標(SDGs)の実現に向けた取り組みを全国に先駆けて実践しています。

県では、「おいしい未来へやまなし」をキャッチフレーズに、おいしさの先を行く県産農畜水産物の魅力をPRしています。基準を満たす農畜水産物には、山梨を象徴する富士山に、未来の輝きを表す星の形をかたどったロゴマークを使用することができます。

今後も生産者の所得向上や国内消費、海外輸出のさらなる拡大に向け、プロモーションを積極的に実施し、山梨の農畜水産物の価値をさらに高めています。



県オリジナル品種「甲斐ベリー」



「おいしい未来へやまなし」のロゴマーク

スマート農業

農業が持続的な産業として発展するためには、省力化などが可能となるスマート農業技術の活用が重要です。そのため、県では農業者などが行う県内で導入されたことのない技術の実証を支援しており、その一つとしてGPSを活用した無人田植機の実証が行われています。

また、県が参画するコンソーシアムにおいて、ベテラン農業者のブドウ栽培技術を学習したAIを組み込んだ摘粒作業などを補助するロボットの開発を行っています。

さらに、ブドウや野菜などの生育環境をセンサーで感知し、高品質・多収要因を解析することで、生産性の飛躍的向上を目指す「データ農業」の技術開発を推進しています。



スマートグラスを使ったブドウの作業

4パーミル・イニシアチブ

土壌に炭素を貯留することで、大気中の二酸化炭素濃度を低減し、地球温暖化を抑制する国際的な取り組みである「4パーミル・イニシアチブ」に、本県は令和2年4月から日本の地方自治体として初めて参加しています。本県の主要農作物であるブドウやモモなどの果樹の剪定枝を炭化し、土壌に貯留することで、二酸化炭素濃度の低減に貢献することができます。この取り組みにより生産された農産物を認証することで、環境に配慮した農産物としてのブランド化を図り、高付加価値化を目指しています。



ブドウの剪定枝からできたバイオ炭「4パーミル・イニシアチブ」のロゴマーク

アニマルウェルフェア

アニマルウェルフェアとは「動物福祉」「家畜福祉」とも訳され、鶏を地面に放して飼う平飼いや牛の放牧など、家畜の快適性に配慮した飼養管理を行うことです。県では認証制度を全国に先駆けて創設しました。講習会の受講などにより知識を習得した上で、家畜の飼育面積や環境などの基準を満たす実践農場をそれぞれの達成度に応じた3段階で認証します。段階に応じたロゴマークを付与していることから、新たな価値の付いたブランド畜産物を消費者は選びやすくなっています。



快適性に配慮した飼養管理「アニマルウェルフェア」のロゴマーク



■問い合わせ先 自然共生推進課 TEL 055-223-1634

山梨県は、富士山をはじめ、南アルプス、八ヶ岳、奥秩父などの山々に囲まれ、山に降る雨や雪が森林を潤しながら伏流水となり「天然の水がめ」と呼ばれるほど豊富な水をたたえる名水の地です。

こうした豊かな自然や良質な水は、生産量日本一を誇るミネラルウォーターをはじめ、ブドウやモモなどの美味しい果物や日本酒、富士の介などの養殖魚、長い歴史を持つ織物や手すき紙などのさまざまな特産品を育むとともに、多様な泉質を持つ温泉や「名水百選」などに選ばれる湧水、渓谷等の観光地としての魅力を創出するなど、多くの恵みをもたらしています。



西沢渓谷七ツ釜五段の滝（山梨市）



手すき和紙工芸には豊かで良質な水が必要



西山温泉（早川町）

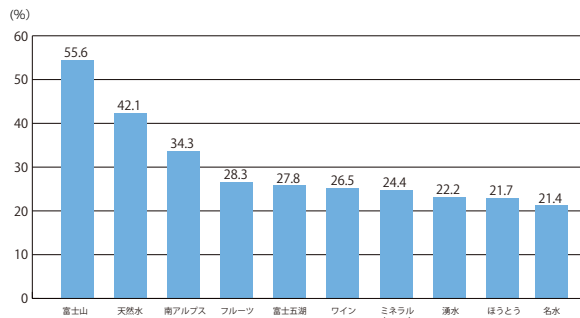


ブランドを推進するポスター

天に選ばれし、名水の地。山梨。

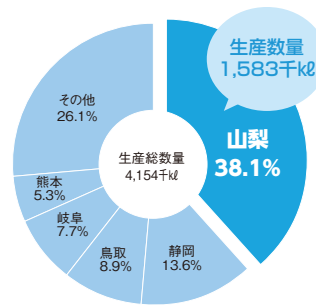
県では、健全な水循環を守り育てる「育水」という考え方のもと、民間企業や団体などと連携しながら、豊かで良質な水を将来にわたって保全するとともに「名水の地 やまなし」で育まれる豊富な地域資源（観光資源、県産品、自然環境、歴史文化など）と融合し、その魅力を国内外に情報発信するなど、山梨の「水」のブランド力、さらには本県のブランド力向上を目指しています。

■「山梨の水」と聞いてイメージするもの



資料：令和3年度やまなしの「水」に関する意識調査結果（上位10位）※複数回答あり

■ミネラルウォーター都道府県別生産数量（令和3年）



資料：日本ミネラルウォーター協会統計資料（端数処理により内訳の合計は100%にならない）



■問い合わせ先 森林政策課 TEL 055-223-1642

山梨県は、県土の約78%を森林が占める全国有数の森林県です。森林面積全体の約44%を占める人工林の多くが大きく成長し、木材として利用可能な時期を迎える中、ICT等の先端技術を活用し、森林施業の生産性・安全性を向上させるスマート林業の推進や公共建築物等への積極的な県産材の利用などを通じて「伐って、使って、植える」という森林資源の循環利用に取り組んでいます。

また、森林環境税などを活用して荒廃した民有林の間伐を行うなど、山地災害の防止や水源の涵養、地球温暖化の防止といった森林の有する公益的機能が将来にわたって発揮されるようにするための取り組みのほか、キノコ類やタケノコ、ワサビなど特産林産物の産地化を推進しています。



手入れが行き届いた人工林



山梨オリジナルの特産林産物 山梨夏つぎのこ

FSC® 森林管理認証

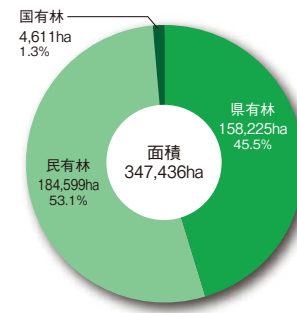
県有林は、公有林としては全国に先駆けFSC 森林管理認証を取得しています。この認証は、県有林が環境、社会、経済の各分野において国際的な基準に従い適切に管理されていることを証明するものです。

認証面積は14万4千ヘクタールで国内認証の約3分の1を占め、全国1位。その豊かな森林資源から生産された木材はFSC 認証材として、東京2020オリンピック・パラリンピック関連施設や公共建築物、その他さまざまな商品に活用されています。



国立競技場スタンド：観客席を覆う大屋根に県産FSC認証材（カラマツ）を使用
（提供：独立行政法人日本スポーツ振興センター）

■所有形態別森林面積



資料：令和4年度山梨県林業統計書（統計表の基準により四捨五入したため、計と内訳は一致しない）

■森林面積と森林比率

山梨	
総面積	446,527ha
森林面積	347,436ha
森林比率	77.8%

■人工林面積と人工林比率

山梨	
森林面積	347,436ha
人工林面積	153,010ha
人工林比率	44.0%

観光

■問い合わせ先 観光文化政策課 TEL 055-223-1556

山梨県は、豊かな自然環境、先人たちが積み重ねてきた歴史や文化、四季の特徴が際立つ気候、風土の恵みである食といった、観光地として必要な要素を高いレベルで兼ね備えています。本県が魅力的な地として観光客から選ばれ満足してもらえるよう、これらの地域資源を活用するとともに、これまで観光に活用されてこなかった新たな地域資源を掘り起こし、磨きをかけ、光を当てる取り組みを進めています。また、観光客が訪れることで、地域社会が活性化し、観光事業者にとっても働く魅力が向上するよう、観光産業の高付加価値化を推進しています。



ワイン、食、温泉、グランピングなど、山梨ならではの観光コンテンツが充実

美食王国やまなし ぜひ、やまなしの美食を体験してみてください

本県は140年以上続くワイン造りの歴史と伝統があり、今もなお日本ワイン生産量、ワイナリー数ともに日本一を誇る「ワイン県」です。ワイン県宣言をきっかけに、ワインを通じた周遊観光や地場産業の活性化に取り組んできました。

中でもワインとの相性が良い「食」について、県内で活躍するシェフやソムリエで構成された「やまなし美食コンソーシアム」と連携し、ワインなどの県産酒と、高品質な県産食材を活用した料理とのペアリングの魅力を、県内外へ発信しています。

本県の旬の食材を使用した美味しい料理と、ワインをはじめとした日本酒、地ビール、ウイスキーなどの県産酒のペアリングを、美しいロケーションの中で、五感で味わっていた「やまなしの美食」を体験できるレストランなどを県内各地にさらに広げ、「食」を目的に多くの観光客が訪れる「美食王国やまなし」の実現を目指していきます。



県産食材を使った創作メニュー

TGC FES YAMANASHI 2022

本県にはフルーツやワイン、ジュエリーや織物、キャンプやグランピング、四季折々の風情を楽しめる自然観光資源といった魅力的な観光コンテンツが多くあります。これらの魅力を観光客数に占める割合が少ない女性若年層に向けて発信し、本県を訪れていただくため、令和4年10月、県は史上最大級のファッションフェスタ「東京ガールズコレクション (TGC)」がプロデュースする「TGC FES YAMANASHI 2022」を開催しました。会場となった河口湖ステラシアター(富士河口湖町)などには県内外から延べ約5,750人が訪れ、オンライン視聴を含めると総体感人数は延べ約55万人を超えました。これからも幅広い世代から観光地として選ばれるよう、イベントなどを通じ山梨の魅力を発信していきます。



県立美術館 新たな価値の創造拠点へ

1978(昭和53)年の開館以来、県立美術館は「ミレーの美術館」として県内外の多くの方から親しまれてきました。2028(令和10)年の開館50周年を目前に控え、新たな鑑賞体験の提供を模索すべく、県立美術館メタバースプロジェクトを2022年に立ち上げました。

また、館内のレストランでは特別展ごとにそのイメージに合わせた料理により、食とアートのコラボによる新たな美的体験をご提供しています。こうした食とアートとのコラボレーションをはじめ、今後は分野を超えた連携を視野に、新たな価値の提供を目指していきます。

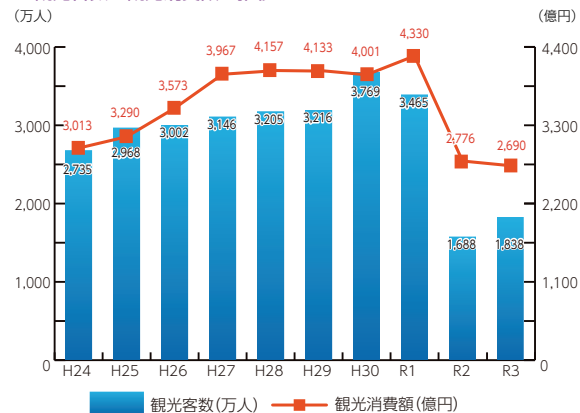


県立美術館



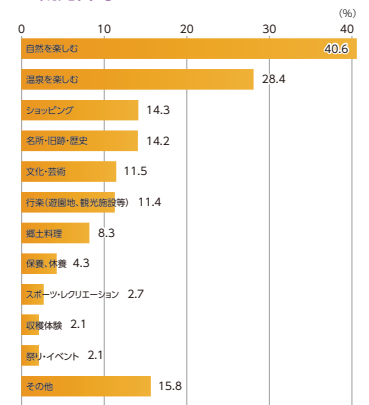
メタバースを活用した展示風景 ©2023 takurakazuki

■観光客数・観光消費額の推移



資料：令和3年山梨県観光入込客統計調査

■観光目的



資料：令和3年山梨県観光入込客統計調査

先端産業

■問い合わせ先
 メディカル・デバイス・コリドー、水素・燃料電池について
 成長産業推進課 TEL 055-223-1565
 P2Gシステムについて
 新エネルギーシステム推進室 TEL 055-234-5268
 テストベッドの聖地について
 リニア未来創造・推進課 TEL 055-223-1363

本県の主力産業である機械電子産業の企業は、産業用ロボットや半導体の製造を支える高度な技術を持っています。これらの企業が培ってきた技術を生かし、今後成長が期待される医療機器産業や水素・燃料電池関連産業への進出を支援しています。

また、本県が持つ資源を活用してスタートアップ（新興企業）を呼び込み、県内のさまざまな場所で先端技術の確立に向けた実証実験が繰り返されています。

ここ山梨は、既存の企業も新たな企業も成長や挑戦ができる場として注目を集めています。

メディカル・デバイス・コリドー

高い技術力を持つ本県の機械電子産業の企業に、医療機器分野への進出を促し、県内一帯に集積させる「メディカル・デバイス・コリドー構想」の実現を目指しています。

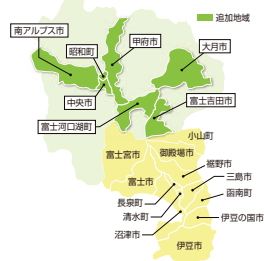
この構想の実現に向け、メディカル・デバイス・コリドー推進センターを設置し、法規制への対応、資金調達、販路拡大など、企業に寄り添った息の長い支援を行っています。また、医学部を擁する山梨大学と連携し、社会人技術者向けの人材育成プログラムを開設し、本県の医療機器産業をけん引する技術者を育成しています。

令和3年4月には、医療機器生産額が全国首位の静岡県が取り組む「ふじのくに先端医療総合特区」に山梨県の7市町が加わるなど、静岡県と県境を越えた産学官金の連携に取り組んでいます。

予防医療や健康維持に対する需要が高まっていることから、今後は、ヘルスケアやデジタル技術を活用した分野などにも支援の裾野を拡大していきます。また、県内企業の一層の取引拡大を図るため、国内外のスタートアップとの連携を進めるほか、巨大な海外市場への参入に挑戦していきます。



山梨大学と連携して技術者向けの人材養成講座を実施



「ふじのくに先端医療総合特区」に追加された地域



医療現場で実証実験中の薬剤搬送用ロボット



半導体事業で培った技術を活用して医療機器分野へ進出した企業

水素・燃料電池関連産業

太陽光発電などの再生可能エネルギー（再エネ）で水素を製造するパワー・ツー・ガス（P2G）システムの開発に、民間企業と共同して取り組んでいます。この「やまなしモデル P2G システム」は、世界最高効率の電解質膜を用いた装置を採用し、小型でシンプルな構成でありながら、連結することによって大型化や大容量化にも対応できます。

再エネ由来の電力で水を電気分解して造られる「グリーン水素」は製造過程でも二酸化炭素を一切出さないため、究極のクリーンエネルギーといわれています。世界が脱炭素化に取り組む中、この流れを追い風に、県は「やまなしモデル P2G システム」を国内外に広く展開していきます。

水素・燃料電池関連産業は今後も安定した成長が期待できることから、県内の中小企業の参入を支援し、本県の基幹産業とすることを目指しています。県内には、世界最高水準の研究機関である山梨大学水素・燃料電池ナノ材料研究センターをはじめとする研究開発拠点が集積しています。令和5年には、甲府市の米倉山に世界最先端の技術者が交流する研究開発拠点「米倉山次世代エネルギーシステム研究開発ビレッジ（Nesrad）」を整備しました。

こうした強みを生かし、県内企業の製品開発や部材供給による参入支援、専門人材の育成など、県内の中小企業の参入を後押しするためのさまざまな取り組みを行っています。



米倉山電力貯蔵技術研究サイト



水素・燃料電池産業の活性化を図るための県内企業などとの情報交流会

テストベッドの聖地

人材の交流を生み出し、イノベーション（技術革新）が創発される「テストベッドの聖地」となることを目指し、地域特性を生かした実証実験が盛んに行われる環境づくりを進めています。

本県は、豊かな自然環境に恵まれたゆとりある空間、中山間地域をはじめとする多彩な実証フィールドなど、テストベッドに適した高いポテンシャルを持っています。また、大都市圏とのアクセスも容易です。こうした優位性を生かし、多くの実証実験などを呼び込むため、県は「TRY! YAMANASHI! 実証実験サポート事業」を実施しています。この事業は、資金の支援のみならず、関係機関との連携や技術面でのサポートなどに県が積極的に関与する伴走支援が特徴です。これまで支援した中には、実験の成果が実を結び全国展開を進めている企業もあります。

実証実験サポート事業の他にも「空中を駆けるバイク」の実用化に向けた研究開発などを支援しています。



空中を駆けるバイク「XTREMISM」の実証実験



中山間地域の不便さを解消するドローン配送の実証実験

地場産業

■問い合わせ先 産業振興課 TEL 055-223-8871

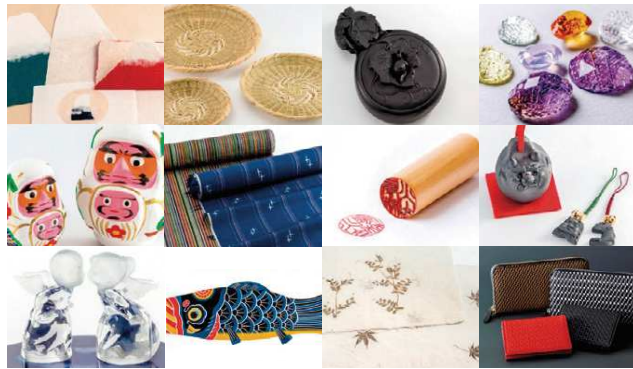
山梨県には、長い時間をかけて磨き上げた伝統的な地場産業が数多くあります。中でも、海外でも評価を受けているワイン、豊富で上質な水で仕込む日本酒、高度な技術で美術品の域に高められている水晶貴石細工、千年以上の歴史を誇る産地で作られる織物（テキスタイル）、そして風土と暮らしの中で受け継がれてきた印章や印伝といった工芸品などが有名です。雄大な自然と歴史の中で思いを込め、時間をかけて丁寧に仕上げるつくり手が、本県の地場産業を支えています。

美酒美県やまなし

お酒の地理的表示（GI）は、地域の気候や風土、伝統的な製法などを生かして、品質にこだわって生産に取り組んでいる産地を国が指定する制度です。平成 25 年に全国で初めてワインで GI「山梨」が指定され、令和 3 年には日本酒でも GI「山梨」が指定されました。同じ県から 2 つの酒類で GI が誕生するのも全国初です。これを受け県は、おいしいお酒は美しい自然が育てる「美酒美県やまなし」と銘打ち、本県が誇る美しい自然と匠の技から生み出される高品質な日本酒・ワインを国内外に向けて PR しています。

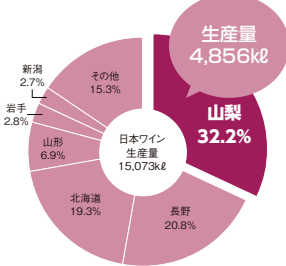


「美酒美県やまなし」として日本酒とワインを PR



■日本ワイン*生産量(令和3年度)

*日本国内で製造されたブドウを 100% 使用して国内で醸造されたワイン



資料：酒類製造業及び酒類卸売業の概況

やまなしの美技

伝統産業・地場産業の魅力を伝えるべく、さまざまなプロモーションを展開しています。本県は国内屈指のジュエリーの産地であり、国際的なジュエリーフェアの開催などブランド化や国内外の販路拡大に向けて取り組んでいます。富士・東部地域の代表的産品である郡内織物は、海外の展示会出展を通じ、新しい市場の獲得を図っています。また、印章や和紙などの「山梨県郷土伝統工芸品」の振興や次世代への伝承のため、展示会などを通じ、県内外への PR や普及に努めています。



交通ネットワーク

■問い合わせ先
 リニア中央新幹線について
 リニア未来創造・推進課 TEL 055-223-1664
 道路交通網について
 道路整備課 TEL 055-223-1686
 高速道路推進課 TEL 055-223-1690
 交通強靱化について
 県土整備総務課 TEL 055-223-1668

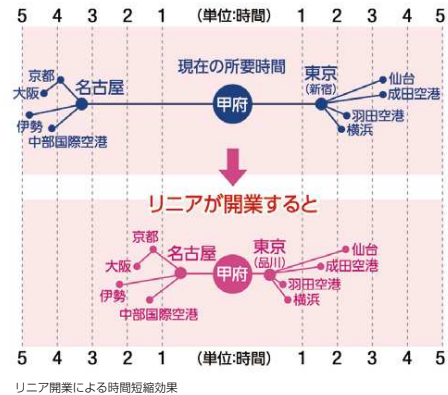
リニア中央新幹線

近い将来開業が予定されているリニアは、東京圏や名古屋圏、大阪圏の三大都市圏を結ぶ新たな交通の大動脈となります。本県においても、東京都心から約 25 分、名古屋から約 45 分で結ばれることとなり、国際空港からのアクセスも格段に向上します。リニアによって山梨は全国のみならず世界との結び付きも強化されることになります。

そして、リニア駅は中央自動車道や新山梨環状道路などを通じて道路ネットワークと結ばれます。県では、最新技術の動向も注視しながら、県内主要拠点とのさらなるアクセス向上を図っていきます。



リニア駅周辺整備の概要



リニア開業による時間短縮効果

道路交通網

本県の骨格となる道路交通ネットワークの整備が進められています。甲府都市圏における交通の円滑化と、周辺地域の連携強化などを目的とする新山梨環状道路や、盆地と富士北麓地域を結ぶ国道 137 号の新たな御坂トンネル、リニア駅に隣接する中央自動車道の（仮称）甲府中央スマート IC が整備されることで、県内各地の移動がスムーズになります。これは、生活環境の改善にとどまらず、観光客の周遊促進や物流の効率化など幅広い効果が期待でき、リニア開業効果の県内全域への波及にもつながります。

令和 3 年 8 月には、中部横断自動車道 山梨～静岡間が全線開通。静岡県と高速道路で直結したことで、清水港や富士山静岡空港までの所要時間が大幅に短縮され、国内外とのアクセスが飛躍的に向上しました。今後、長坂～八千穂間が整備されると、長野県との新たなルートが開け、さらに大きな効果が期待できます。県では、長野県とつながる中部横断自動車道長坂以北の早期整備を国に対して強く働きかけていきます。



県内外で整備が進む交通ネットワーク

交通強靱化

本県では、自然災害によって県外との交通が寸断され県民生活に深刻な影響が及ぶことがありました。しかし、中央自動車道や東富士五湖道路に加え、近年、中部横断自動車道の山梨～静岡間や、東富士五湖道路につながる須走道路・御殿場バイパスが開通し、高速交通網が確保されました。1 つの路線が遮断されても他の路線を迂回することで交通が途絶えるリスクを減らすことができ、本県に関わる交通が強靱化されました。